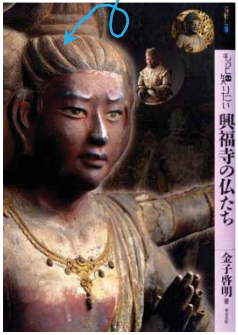




左は表紙の写真の続き。高く掲げたパンをじっと見つめる鹿に気圧されて、後ずさりしていった子供たちは、この後、後ろの一段高い段でじっとパンを見ていた鹿にパンを見事に奪われていました。まるで漫画みたいに、すぐ近くの興福寺の阿修羅像のように後ろにも顔があれば、パンを奪われなかったかもしれませんね。(^_^)



阿修羅像



もっと知りたい 興福寺の仏たち
金子啓明著 東京美術刊

その**阿修羅像**。顔は3つ手は6本の三面六臂の像です。

阿修羅は、神（帝釈天）と戦う「魔人」とされますが、ここ興福寺の阿修羅像は戦いとは程遠い存在に見えます。細い腕、華奢な体。眉根をやや寄せて、切なそうにじっと何かを見つめています。その阿修羅像のお顔は尊い仏像というより、純真な少年のようです。いや少女かも。僕なんぞは、**夏目雅子さんの三蔵法師**を思い出しました。(^_^)
これが奈良時代に作られたというから驚きです。だって普通に今風のお顔ですから。3つの顔のうち、右のお顔は唇を噛んでいて、目の前の悲しみにじっと耐えているようにも見えます。俗な言い方ですが、阿修羅には大きなストレスがあるに違いありません。

戦闘神として知られる阿修羅ですが、元々は正義を司るといわれていました。もしかすると、このストレスが爆発したとき、勝てるはずのない帝釈天に挑む戦いの神となったのかもしれませんが。(チープな僕の考えっす)
自分が正義と信じるものであっても、周りを顧みないで妄執にとらわれると悪となります。実際、興福寺以外の阿修羅はどれもおどろおどろしく描かれています。(そーいや「あしゅら男爵」なんてのも(^^ゞ)
阿修羅は何度も戦いを挑み続けます。この果てしない戦いの場が「修羅場」です。考えたくもないですが、家庭でも職場でも、ストレスが一定の量を超えると「修羅場」となりかねません。

さて、この12月から50人以上の事業場に対して**ストレスチェック制度が義務化**されます。1年以内に従業員のストレスチェックを行い、労働基準監督署に報告する必要があります。ただでさえ労働力人口の減少が見込まれる我が国においてはメンタルヘルス対策は大きな課題。民主党政権時代から模索・検討され、ようやくストレスチェック制度という形で実現にこぎつきました。でもストレスチェックで得られた数値だけを眺めてもきっと何の解決にもなりません。



興福寺の阿修羅像の人気の秘密は、その何とも切ない「まなざし」であるといえます。まなざしを注ぐということは、相手のことを考えるということ。相手が内面に抱える悩みや悲しみや苦しみを、理解するということにつながるものです。例え悲しみや苦しみに救ってあげることができなくとも、苦悩を共にし、悲しみを共にし、思いを共にする・・・。そんなまなざしがこの阿修羅像にはあるように感じます。僕は、すっかり阿修羅像のファンになってしまい、いろいろ本を買ってしまいました。



一方、のんきな鹿くんは、まず食べ物**シカ**目線を移しません。(^_^)
花札の10月に「紅葉に鹿」がありますが、そこで描かれているのが、パイと横を向いた鹿。これが「シカト」の語源だそうです。「まなざし」と対極の「無視」は、大きな**ストレス**です。12月からスタートするストレスチェック制度は、職場改善のための一つのツールにすぎません。忙しくとも、同じ職場の仲間への「まなざし」を忘れないようにしたいものですね。

